



第五號 昭和二十六年六月二十日發行 定額五錢 發行所 東京橋本區西一ノ七 同盟通信社

新聞通信社を代表して

岩永本社社長祝辭を述ぶ

亞歐聯絡記録飛行完成報告會

朝日新聞社の神風號による亞歐聯絡記録飛行は、驚異的な新記録を樹立して、その歸還飛行をも完成、「飛行機日本」を世界に誇示した。岩永社長は去る五月廿二日、明治神宮外苑競技場で舉行された亞歐聯絡記録飛行完成報告會に臨み次ぎの如き祝辭を述べた。

同盟通信社長 岩永裕吉

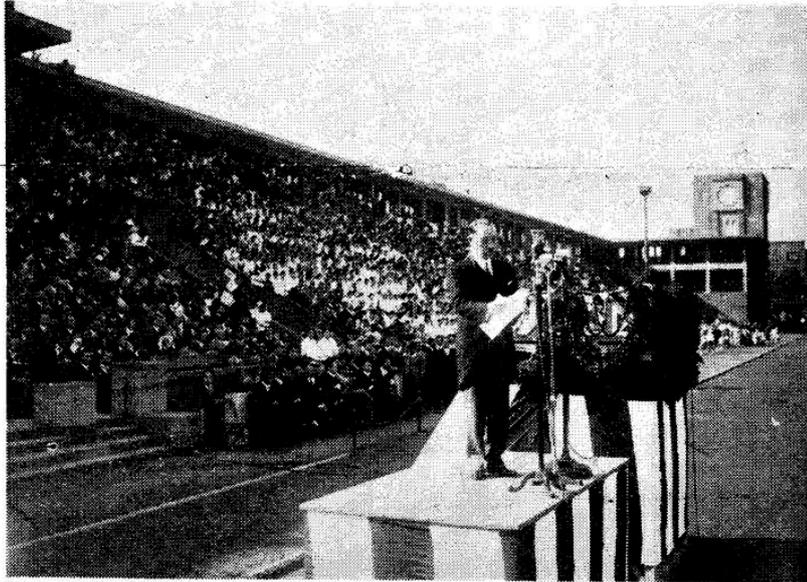
本日朝日新聞社の亞歐聯絡記録完成報告會に臨みまして同業新聞通信事業に従事する者を代表して一言祝辭を述べた。祝辭を得ましたことは私の最も光榮とし、且つ欣懐とする處であります。

今回の神風號による亞歐聯絡記録飛行の功績及其の國家社會に齎した甚大な影響に就きましては、昨日の着陸場に於ける各大臣其の他諸名士の演説並に本日の報告會に於ける先刻よりの諸氏の御祝辭に殆ど盡きて居るのであります。今更之に蛇足を加ふるの必要はないと考へます。依て私は唯新聞通信事業の角度から眺めました此の歐亞大飛行の意義について些か申述べて見たいと思ひます。

凡そ個人の間の交りに致しても又國家と國家との國際關係に於きまして、互に相知り互に友情を増して行くが爲めには、單に論議を交はすばかりでは、到底出来ぬことである。苟くも人間である以上は時には相互の利害問題を超越して人間味のもつた談笑をする機會を持たねばならぬことは申す迄もないことである。而して此の事を新聞通信事業の上にあてはめて考へて見ますならば、明らかな社會を築き上げ、親密な國際關係を樹立するがためには、單に政治問題、外交問題、經濟問題等のかた苦しい記事を掲載するのみでは到底其の目的を達することが出来ません、必ずや國境、人種の別なく、内外の萬人共に深甚な興味を蒙り、明朗にして建設的な社會記事、寫眞記事等によつて新聞紙面を彩らなければならぬものであります。之によつて國家社會人心の氣分が朗らかなり、又各國の國民相互間の感情がほごされ、其の素地の上に政治、外交、經濟等の問題が議せられのでなければ

外交も満足にして恒久性ある効果を齎らすことは出来ないのであります。然して此の素地を國家社會又は國際間に開拓樹立して行くこと云ふことが新聞通信事業の一大使命であり、又所謂新聞の社會記事の狙ひ處であると思ふべきではありません。

如何なる善政も亦如何に巧妙な



此の意味に於きまして、今回飯沼、塚越兩氏の手によつて成し遂げられた亞歐往復の大飛行は其の着想に於て其の規模に於て、將た又全世界の人間の興味を繋いだと云ふ點に於きまして殆ど理想に近き好個の社會記事であつたのであります。去る四月六日我が神風號が亞歐訪歐記

録飛行の壯途につかれます前後から準備する朝日新聞は勿論全國の新聞が如何に此の記事を多く取扱い、又其の背後にある全國の讀者が如何に此の一舉に興味と關心とを繋いで其の成功を祈願して居つたか云ふことは、私が茲に喋るまでもなく、今日各位が眼のあたり見られる、此の報告會の盛會によつても之を語り得るのであります。それと同時に如何に此の大飛行が國際的に我國の國威を發揚し信用を高めると共に國際關係を明朗化したかと云ふことは、今回の訪歐飛行に關する記事が全世界の新聞に如何に廣く報道され如何に大きく取扱はれ、又我が飯沼、塚越兩氏及神風號が到る處絶大な歡迎を受けられたかと云ふことによつて證明せらるゝのであります。私が新聞事業に國際的新聞事業に従事致してから十有七年の間我國を主題とする社會記事で此の如く全世界の新聞に大きく取扱はれた社會記事は未だ曾つてなく、單に我國に於てのみならず、世界何れの國に於ても苟くも數人の人が集まれば、互に相知ると知りざるとに拘らず、先づ話題は神風號のことから始まり、茲に會話の端緒を得ると云ふ有様であります。換言すれば神風號の訪歐飛行は我々新聞人に對しても對内的に將た對外的に最も健全にして意義ある新聞材料を與へ、之によつて新聞通信事業本来の使命の達成を容易ならしめて下さつたと申すことが出来るのであります。此の點に於て私は同業者として特に深く朝日新聞社並びに飯沼、塚越兩氏及神風號の建造に當られた各位に感謝し、且つ此の大計畫が完全なる成功を收められたことに對し、衷心より御祝ひ申上げる次第であります。

國際經濟週報

△社員購讀及び社外購讀に就て▽ 國際經濟週報御入用の方は社員(准社員、ポイイを含む)に限り特に左の實費を以て自宅に郵送します。御希望の方は直接週報部に御申込み下さい。 一月 五十錢 尚、社外各方面に對する購讀御勧誘を願ひます。定期購讀者獲得の場合には入金額の三割の手數料を差上げる内規になつてゐます。

河邊大佐來社

參謀本部河邊大佐は五月十七日午後七時來社會議室で上田、畠山兩局長各部長出席の上我が陸軍の現狀其他につき講演を行つた。

宇佐美鐵道總局次長來社

鐵道總局次長宇佐美爾氏は滿鐵東京支社長伊澤道雄氏總局資料課長加藤新吉氏と共に五月二十日午後二時半來社會議室で滿洲國內各鐵道の現況其他につき講演を行ひ上田、畠山兩局長及各部長多數が出席した。

情報部長と懇談

外務省河相情報部長は二十一日午後一時半就任挨拶をかねて東京クラブに岩永社長、上田、堀兩局長以下各部長を招待懇談した。

本社職制の一部改正

六月七日より實施さる

本社の現行職制の一部を今回次の如く改正した。新職制は昭和二十一年六月七日より實施してゐる。因に改正の要旨は左の通りである。

- 一、總務局出版部を事業局に移管す即ち總務局には庶務、經理、業務の三部を置く
二、編輯局を内信局と改稱す
三、調査部を廢止し同部の事務を整理部に移す
四、外信部、東亞部を外信局に移管す
五、寫眞部を事業局に移管す即ち内信局には政治、經濟、社會、地方、特信、運動、演藝、整理の八部を置く
六、外報局を外信局と改稱す
七、外信局には外信、東亞、英文、發信の四部を置く
八、經濟局週報部を事業局に移管す
九、經濟局には商況、外經の二部を置く
十、事業局を新設す
十一、事業局には寫眞、出版、週報の三部を置く
十二、福岡、新卒の兩支局を支社とする
十三、その結果左の如く發令された。

Table listing various department heads and their names, such as 編輯局調査部長 松方義三郎, 編輯局外信部長 長谷川才次, 編輯局庶務部長 入江啓四郎, etc.

Table listing branch managers and their names, such as 大阪支社總務部長 塚本 義隆, 大阪支社庶務部長 中川 總夫, 大阪支社業務部長 不動 健治, etc.

Table listing various staff members and their names, such as 社員 高橋 定, 社員 于松 坡, 社員 宮澤 貞男, etc.

Table listing various staff members and their names, such as 編輯局地方部長 高木 一實, 編輯局特信部長 秋山 慶幸, 編輯局運動部長 渡邊 純, etc.

Table listing various staff members and their names, such as 編輯局社會部勤務社員 江尻 進, 上海支社勤務社員 蝦山 芳郎, 編輯局外信部勤務社員 村上 定一, etc.



日滿連絡飛行に

井本君初乗

滿洲弘報協會宛のメッセーヂを携行

東京 新京、東京、天津、東京

岩永社長のメッセーヂ

日滿兩國が一徳一心、東洋平和永遠の安定勢力として善隣親善を加へつゝあるは眞に慶祝に堪えざる處であります。

滿洲帝國建國の大精神に即して居られる滿洲弘報協會が日滿一如の關係に立脚せられ内明瞭なる王道樂土の建設を分擔し、外滿洲帝國建國の大理想を世界に光被せられつゝあるに對し、我同盟通信社は貴協會の最も理解ある協力者として全幅の敬意を表するものであります。

本日兩帝國首都を繋ぐ超特急連絡飛行の開始に當り、貴協會に深甚なる敬意を表し、且つ滿洲國內諸新聞の御降運を祈る次第であります。

昭和十二年六月一日

同盟通信社社長 岩永社告 滿洲弘報協會理事長 高柳保太郎殿

一臺北三空路十時間特急航空連絡の期約飛行は六月一日を以て開始された。東京から新京への空の旅に我社からは井本社會部次長が特派され

を始め、大久保東京市長代理の河村部長、加賀各社からの在滿郷土部隊宛の慰問メッセーヂを携行して

弘報協會からも

本社へ

六月一日午前七時廿分新京を離陸、九時十分の好記録で午後四時三十分東京羽田空港に到着した日滿特急連絡機上り空に搭乗した太田國通特派員は滿洲弘報協會理事長高柳保太郎氏の左の如き岩永本社社長宛メッセーヂを携行、同午後五時本社を訪問岩永社長に手交した。

高柳理事長のメッセーヂ

建設途上にある我が滿洲帝國は盟邦日本の絶大な精神的經濟的援助の下に建國僅か五ヶ年間に於いて世界的繁榮に値ひする長足の發展を遂げ來つたことは既に日滿兩國國民周知の事實であります。而して日滿一心一徳の建國精神と日滿不可分の嚴然たる事實とが建國の方我が滿洲國三千萬民衆の胸底深く不拔の根強さを以て植付けられつゝあることを全日本國民に送り得る事は尙に愉快に堪へないことであります。此日滿兩國の緊密なる不可分關係を如實に結ぶものは一に兩國の國情並にその發

展状況を相互に正確に認識し合ふことであります。更にこれを促進するものは日滿交通網の發達と簡捷化、それに基づく時間的距離の短縮にありと信するのであります。いま日滿兩國間に於ける電信電話線の急速なる整備、海上交通に於ける日本海湖時代の実現を前にして今日日滿兩國の首都東京、新京間十時間航空連絡により空に於て日滿樞軸化の實現を見るに至つた事は日滿兩國の繁榮のために且つ又東亞政局安定促進の爲に寔に欣幸に堪えない處であります。わが滿洲弘報協會は建國以來日本に於ける唯一の國策通信社たる同盟通信社と相提携し日滿兩國の國情並にその發展状況を相互に交換報導し、兩國を相互の間に正しき認識を與へ以て兩國國民の精神的文化的且つ經濟的提携に奉じ來つたのであります。且つこれが使命達成のため日滿航空連絡の期約の進展を機とし、日滿言論報導線に於ける完全なる共同陣を結成し得たことは、日滿新聞界は無論のこと兩國國民の文化的向上に寄與するところ更に大なるべきを確信致すべきであります。こゝに同盟通信社の發展を祝福すると共に日本の九千萬國民諸賢に心からなる喜びの辭を捧呈する次第であります。

六月一日 滿洲弘報協會 理事長 高柳保太郎 同盟通信社 社長 岩永社告殿

飯沼・塚越兩氏來訪

亞歐連絡飛行に大記録を樹立した上、歐洲各國の訪問親善飛行を完了、五月廿一日無事羽田飛行場

に歸還した朝日新聞社神風號の操縦士飯沼正明氏、機師塚越賢爾氏は廿八日日本社を訪問、無事歸還の挨拶を述べた。

互助會消息

- 櫻井 繁喜 (濱松支局) 宮下 忠太郎 (關門支社) 小林 憲治 (大分支局) 有馬 頼雄 (本社支局) 石川 泰三 (本社支局) 近藤 莊一郎 (長野支局) 河瀬 四郎 (大阪支局) 浦野 松男 (新潟支局) 向井 勘一郎 (神戸支局) 石川 道別 (本社聯絡部) 高 辰馬 (本社支局) 西村 潛 (福岡支局) 高 利彌 (本社支局) 松本 兼吉 (横濱支局) 西村 二郎 (本社支局) 田中正太郎 (本社支局) 豊田 治助 (大阪支社) 宮澤 義雄 (本社編輯部) 黒木 正人 (長崎支局)

本社第八回理事會

當社第八回理事會は五月十三日午後一時半より丸の内東京會館で開催、田中理事會長、野中、柏岡兩副會長外理事三十一名(委任状共)出席し、田中理事會長議長席につき左記事項を附議一同異議なく承認した。

- (一) 滿洲弘報協會ト協定ノ件 (二) 時事年鑑買取ノ件 (三) 日本商業通信社買取ノ件 (四) 株式會社無線時事通信社ノ無線電信放送業務買取ノ件 (五) 諸般ノ報告 イ、社員新聞社異動ノ件 ロ、理事異動ノ件 ハ、國內支局新設並ニ廢止ノ件 (尾道、和歌山新設、徳島廢止) ニ、海外支局新設ノ件(パリ、ベルリン、ワシントン新設) ホ、福岡長崎間、岡山高知間專用電話開通ノ件 (六) 昭和十二年度決算案並ニ左記事業計畫案ノ件 一、海外支局ノ新設擴張 二、海外通信集集機關ノ擴張強化 三、海外通信數量ノ増加 四、外國通信社ニ對スル支拂手續料増加 五、對外勸業業務擴充 六、國內通信集集網ノ擴張 七、編輯整理機關新設 八、專用電話線増設 九、特殊電送寫真施設 一〇、寫真電送業務ノ擴張 一一、經濟通信業務ノ擴張 一二、經濟通信用回線電話ノ創始 一三、ニュースノ國內放送施設 (七) 社員新聞社々費月額調整ノ件 (八) 大阪支社長選任ノ件

本社來訪者

四月十一日 臺灣日日新報主筆 大澤貞吉氏 東京日日新報社長 山田金次郎氏 京都日日新報社長 山根文雄氏 釜山日日新報社長 芥川 浩氏 旭川新聞社長 田中秋聲氏 四月十三日 函館日日新聞社長 佐藤勘三郎氏 四月十四日 高知新聞社長 野中權吉氏

釜山日報社長 芥川 浩氏 中國新聞編輯長 上野卓爾氏 伊後新報支配人 安井 隆氏 四月十一日 中國新聞社長 山本實一氏 四月十八日 京都日日新聞社長 山根文雄氏 五月十三日 臺灣新民報社事務 羅萬 傳氏 臺灣日日新報社長 河村 徹氏 五月十四日 合同新聞編輯局長 杉山 榮氏 五月十九日 北海タイムス常務 柏岡清勝氏 河北新報副社長 一力五郎氏 五月二十五日 高知新聞營業局長 高橋直通氏 五月二十六日 滿洲國大使 謝介石氏 五月二十七日 東京日報社長 山田金次郎氏 五月二十八日 臺灣日日新報社長 河村 徹氏

社内往來

△古野營業理事は去る五月一日熊本へ出張、同四日歸社。又同廿一日大阪支社へ赴き同廿四日歸京した。 △松本上海支社長は四月二十日上海、事務打合せ中の處五月二十二日西下歸任した。 戸塚濟南支局長逝去 濟南支局長戸塚君(四七)は五月五日午前一時十五分永眠した。同君は多年新聞聯合社濟南通信員として在職し、同盟通信社の創立と共に支局長に任命され今日に至つた。まぎらふ夫人(三三)との間に上海ブリック・スクールの學長男一郎君(十八)、次男昭三君(十七)、三男正光君(七)、次女伸子君(六)あり、遺族は今後濟南に居住して一郎君の卒業を待つこととなつた。